

# ソメイヨシノ剪定マニュアル

～これだけは実践してほしいこと～

令和2年5月

むつ市桜満開プロジェクト

文責:むつ市都市整備部都市計画課

はじめに.....	1
ソメイヨシノの剪定.....	1
切るべき枝を覚えましょう.....	2
① 枯れ枝の剪定.....	3
② 病枝の剪定.....	3
③ 忌み枝の剪定.....	4
支障枝のまとめ.....	5
枝の切り方と切る位置を覚えましょう.....	6
傷が塞がり易い切り方（断面の質）.....	6
傷が塞がり易い位置.....	7
切り方と切る位置のまとめ.....	8
やむを得ず太枝や長枝を切る場合.....	9
大きな切り口には薬も塗りましょう.....	9
重力には勝てないのです.....	9
最後に.....	11

## はじめに

ソメイヨシノは、葉に先んじて花のみが木を覆わんばかりに咲くことから、花見の桜として好まれ全国に広がった桜です。ところが、木が大きくなるにつれ管理に要する予算と手間が増し、その維持が追い付かなくなった植栽地が多く見受けられるようになりました。しかし、花木の宿命で花が咲く時期には注目が集まるため、きちんと管理せざるを得ない現状です。桜がメインの観光地であれば収入に直結ですから十分な管理計画と予算が見込まれているでしょう。ところが大方のソメイヨシノの植栽地はそうではないのです。もちろん公園や校庭などもそれにあたるでしょう。では、限られた中で何を優先的にやるべきなのか判断しながら出来る事だけでもやろうとなります。そうして行われる管理作業は、**【肥料をあげる】・【枝を切る】・【殺虫剤を撒く】**の3つを出来る時にだけやるというものでしょう。最低限の3つの管理ですら毎年必ず行われるわけではないのです。このうち肥料をあげる作業は、自然まかせでも土壌に還元される養分もありますから、多くの花を望むのでもなければ見送ることもできます。殺虫剤を撒く作業も、駆除する程の害虫の発生が無い年もありますから無用な薬剤の散布を控える場合もあるでしょう。但し枝を切る作業の場合はソメイヨシノの管理では省くことの出来ない作業で、これを疎かにすれば寿命を大きく縮めかねません。今回は、現状で最も問題のある枝を切る作業（以下、剪定とする）に絞って説明をさせていただきます。

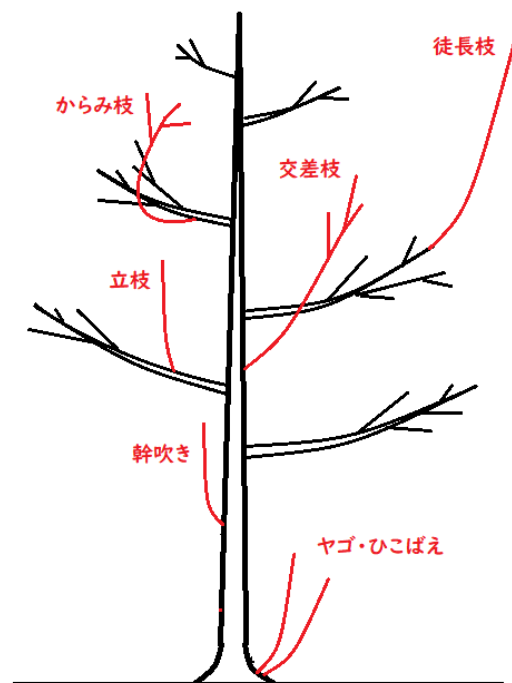
## ソメイヨシノの剪定

「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」という誰もが耳にする有名な諺ですが、「桜は剪定をしない方が良く、梅は剪定をした方が良い」という事を伝えようとしています。梅は剪定する事により多くの花芽を作り出す事ができるため、積極的に剪定を行う樹木です。では、桜は剪定すると花が咲かなくなるのか？と誤ってしまいますが、この諺で切らない方が良いと戒めを込めて先人が伝えようとした事は**【桜は切り口が塞がりやすく、しかも材が腐りやすい性質であるから、切らないに越した事はない】**という事です。しかしそれは、あくまでも理想の話であって、桜を良好な状態で管理していくにはどうしても剪定を行う必要があります。そんなソメイヨシノの剪定作業を行うのは、知識と経験に長けた桜守と呼ばれる専門家や造園業者ばかりではありません。指定管理者として団体や企業内で担当者とされた方や、公園の管理人の立場の方が剪定作業を行う事も多いでしょう。そうした場合、「切り方が判らないけれども剪定しなければいけない…」と、不安なまま剪定作業を行う方もいるのではないのでしょうか。切り方も判らずに作業を行えば、大概の場合は**【切ったことによって樹木を弱らせる】**こととなります。疲れる思いをして剪定したのに、それが

木のためにならないだなんて、木も人も報われません。腐りやすく切り口も塞がり辛いソメイヨシノを、どのように判断して剪定していくのか。全てをこの紙上で伝えることはできませんが、幾つかの注意点を覚えて頂くことにより、間違いなく今よりも桜のためになる剪定ができるようになります。しっかり覚えて実践していただけたら幸いです。

(剪定適期は落葉期ですが、細枝であれば芽吹き以外の時期であれば可能です)

## 切るべき枝を覚えましょう



ソメイヨシノ剪定で切りたい忌み枝

では、ソメイヨシノの剪定において切るべき枝【支障枝】とは、どういった枝なのでしょう。支障枝といっても生え方により多くの種類があります。覚えきれずに剪定を行っても意味がありませんので、まず今回は【生き死に繋がるどうしても見過ごせない枝】として幾つかに絞り説明していきます。以下の3つに大別して進めます。中には当たり前と思われるものもあるでしょう。しかし、きちんと理解して切っていないと「まあいいや」に繋がってしまうのです。この機会にきちんと頭に入れてください。

- ① 枯れ枝
- ② 病気の枝
- ③ 不要とされる枝（忌み枝）のうちでも特に衰弱に繋がりがやすい枝

それぞれの説明は次のとおりです。

#### ① 枯れ枝の剪定

もちろん枯れて不要であるから切り落とすのですが、放任したまま腐朽が進み落下して人に怪我を負わせる可能性があるのが何より問題です。また、自然に折れたり裂けたりした痕は、ボソボソと荒れた状態なので腐朽菌が繁殖しやすいです。人の傷と同じで、鋭利な刃物での傷は塞がりやすいですが、荒れた傷口はなかなか治癒し辛く、また腐りやすいのです。腐朽が進み幹にまで到達すれば伐採処分にもつながる心配まであるため、確実に適切な位置から剪定すべきです。

#### ② 病枝の剪定

##### 【てんぐ巣病】

糸状菌の一種によって引き起こされる、ソメイヨシノには付き物ともいうべき病気です。不規則な箒状に枝が密生して病巣を形成し、花芽はほぼ形成されずに細かな葉ばかりが吹きます。枝から芽吹いた葉はすぐに萎れ、葉裏に粉上の子のう胞子が作られ飛散することにより他の枝に次々と伝染します。胞子ができる前に取り去る事が肝心であるため、葉の無い晩秋から初春のうちに剪定を済ますのが効果的です。菌によって枝が密生した奇形部の付け根で剪定すれば、見栄え的には病巣を取り去れたかに思えますが、菌がどこまで枝を犯しているか目視で判断がつかないため、病巣の付け根と判断できる箇所から一つ元側の枝分かれの部分で剪定するのが好ましいです。





### ③ 忌み枝の剪定

剪定には樹姿を整え美観重視で切る枝（人の都合で切る枝）の他に、初めから不要と判断して優先的に切るべき【忌み枝＝いみえだ】と呼ぶ枝が数種あります。全ての忌み枝を解説し理解してもらうには時間も経験も必要となり、今回だけでは無理です。ただし、剪定においては大事なことです。書店で剪定の教本をお求めになって各自で覚えていただきたいです。今回はソメイヨシノの剪定で是非覚えていただきたい3つの忌み枝に絞って説明します。

#### ・下部の不要な枝【ヤゴ・ひこばえ・幹吹き】

根元から生えた若い枝で、幹から高所の枝へと養分を供給するのを邪魔する存在です。放任すると、木は低所にある枝への供給の方が楽であるため、ひこばえ（ヤゴ）に養分を集中しがちになり、高所の衰弱や枯れが目立つようになります。特殊な事情（仕立て直し）以外は剪定すべきです。



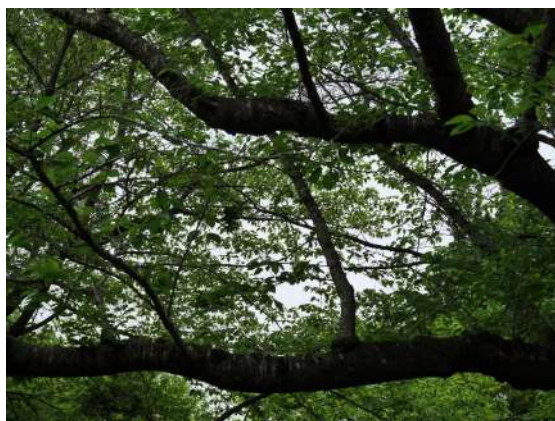
#### ・交錯して擦れる枝【交差枝・絡み枝】

初めから互いに強く触れ合っている枝です。風により頻繁に擦れ合い、樹皮が傷付き損傷部から腐朽が広がります。また、成長して太くなるにつれ、どちらかに食い込みを起こし、そこからも腐朽が進みます。



### ・急激に成長する枝【立枝・徒長枝】

横に寝るように広がった太枝や幹の背から天を突くように伸びた枝が立枝です。横に伸びた枝（幹）の背の部分は植物の養分流動の上で優遇される傾向にあり、そこに生えた枝は他に比べて急激に成長します。また、枝の角度により成長の速度も違い、角度が垂直になるほど成長力が高くなります。この2つの有利条件によって立枝は伸長・肥大化して益々養分を消費することとなり、その枝より先にあった元々の展開していた枝の部分を弱らせる事につながります。基本的に横張枝が多いソメイヨシノでは、大きな交差枝となる事が確実ですので剪定すべきです。徒長枝は背ではないが同じ理屈の枝です。



### 支障枝のまとめ

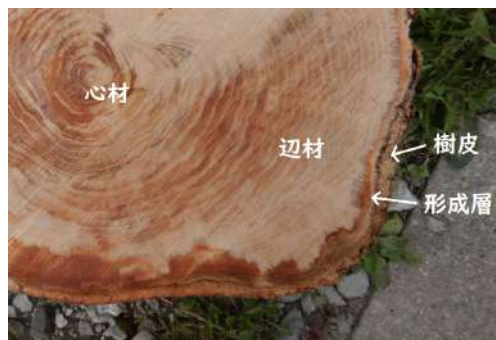
3つに大別した支障枝の説明をしました。支障枝を見極めながら効率的に作業を進めるには慣れが必要です。慣れるまでは取り掛かる支障枝を1種に絞り、それを完了してから次の支障枝の作業に取り掛かるようにして見落とし無く確実に剪定ができるようにしてください。優先順に並べると

枯れ枝を切る → 病枝を切る → 忌み枝を切る

の順で作業するのが迷いも少なく効率的に剪定作業を進められると思います。

## 枝の切り方と切る位置を覚えましょう

切る枝の種類を覚えたら、次はその枝を切るにはどの位置で【切除】するかです。剪定が必要とはいえ、切ることは一時的に傷める事です。そこで大事なのは、切り口が塞がり易い切り方と位置で剪定する事です。それぞれについて説明します。下図の断面を見て以下の文面と照らし合わせながら読み進めてください。



### 傷が塞がり易い切り方（断面の質）

剪定後の治癒とは、樹皮と形成層（以下、樹皮とのみ表記）が再生してきて露出した辺材と心材を覆い隠す事を指します。人の場合ですと瘡蓋ができ、その下で皮膚が再生され、瘡蓋が剥がれ落ちるのが治癒の流れです。それとは違い周囲から樹皮が断面を覆い隠すように迫り出してくるのですから、切り口が極端にささくれ立ってはいけません。手入れの行き届いた鋭利な刃物で綺麗に段無く切ってください。

- \* 必ず手入れの行き届いた切れる刃物で切る事（折り取らない）
- \* 切断面は段が付かずに滑らかである事
- \* 切損じて断面がガタガタだったり樹皮と形成層がボソボソなら切りなおす

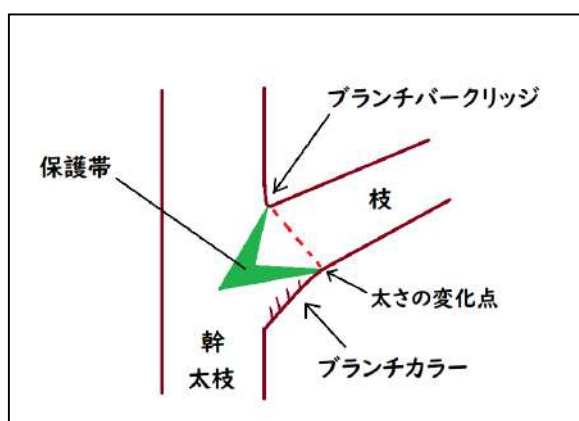


塞がりかけた切り口



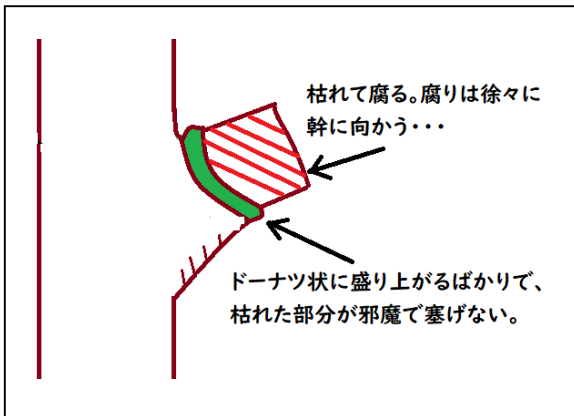
## 傷が塞がり易い位置

せっかく綺麗に切れても、切り残した枝が剪定後の治癒を妨げてしまっている場合が多くみられます。それは切る位置の判断ができていないためです。綺麗な切り口で適切な位置で切る事が大事です。では、適切な位置とはどこでしょう。それは、枝分かれ（幹分かれ）の部分です。ここには保護帯という腐朽菌に対する防護層があります。これを傷つけないギリギリの位置で切るのが適正位置です。保護帯は内部にあり目視できませんが、樹皮上に現われるブランチバークリッジという皺と、ブランチカラーという幹への接続部の膨らみにより位置の見当が付きます。この保護帯を傷つけずに残して切りたいのです。ブランチカラーは必ずしも膨らんでいるとは限りませんが、その場合は、枝の太さが幹に向かって擦りつくように広がり始めた辺りからと見当をつけてください。枝分かれの股にあるブランチバークリッジ（皺）とブランチカラーの始まり（太さの変化点）を結んだラインが赤い点線です。これが適正位置の目安です。



もし点線より長く残して切るとどうなるかの説明もします。こういった切り方が多く、これにより幹まで腐朽する場合が多く見受けられるので、きちんと理解してください。せっかく綺麗な断面で切れても斜線の部位はおおかた枯れます。すると、点線の本来切るべき位置の樹皮と形成層が腐朽菌をシャットアウトしようと盛り上がり塞ぎにかかります。しかし、斜線の枯れたまま残っている枝が邪魔で塞ぐことができません。そのまま塞げずに枯れた部分に繁殖した腐朽菌は、枯れ枝の断面から幹に向かい腐れを進めます。腐朽菌が幹に達すると、保護帯を盾に幹深部に腐朽菌を入れまいと抵抗をします。しかし、枯れ枝が邪魔でいつまで経っても傷口を防げないために、新たな腐朽菌の進入を防げず保護帯が負け、遂に幹が腐り倒木や枯損の道を辿るのです。

よく見かける切り残し



幹まで腐朽が広がった…



これでは塞ぎ様がない…



## 切り方と切る位置のまとめ

手入れの行き届いた切れる刃物で、適正な位置を見極め剪定しましょう。躊躇って長く切り残しをしては、幹（太枝）まで腐る原因を作ってしまいます。

【切るべき枝の種類、それを切る位置、その断面の質】を理解した上で、まずい剪定の手直しを行いましょう。あとは、できれば毎年、難しければ2年に1度は細い枝のうちに判断をして切ってしまう剪定を続けていくことです。徐々に太枝の剪定が減り、腐りの原因を作らず木にダメージの少ない剪定ができるようになるでしょう。

## やむを得ず太枝や長枝を切る場合

### 大きな切り口には薬も塗りましょう

基本的な剪定以外に、周辺環境の変化でやむを得ず長い太枝（複数本の幹も含む）を切らなくてはならない場合があります。これは周辺スペースの関係であつたりしますので、仕方なく太い切り口を作ることになります。断面積が大きいので、保護帯の頑張りに期待するにも無理がありますから、樹皮が塞がるまで材が腐らないように薬剤を塗って保護する必要があります。これは塞がるまで数度行う場合もあります。

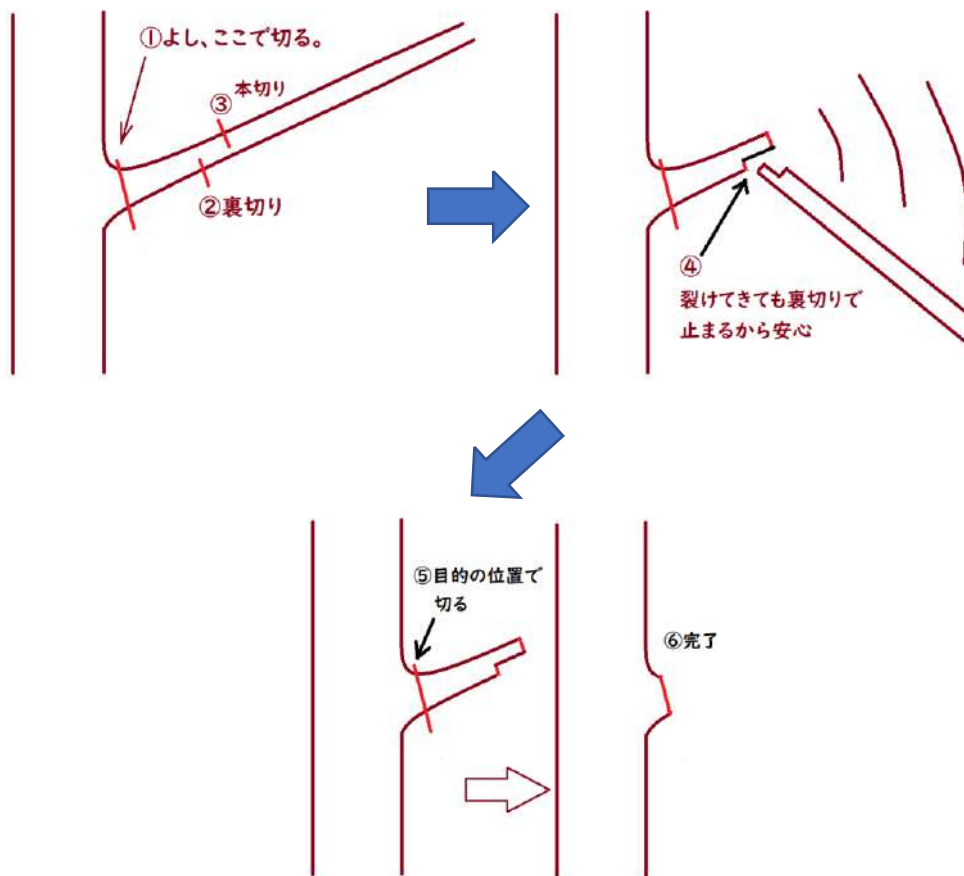
薬剤の名は【殺菌癒合剤：さっきんゆごうざい】といい、雨等の水分を遮るための被膜となる基盤剤に殺菌剤が混ざったものです。これは切った断面にむら無く塗る薬です。トップジンMペーストやカルスメイトといった商品をはじめに様々なメーカーから販売されていますので、購入しておくべきです。ちなみに、塗るに越した事はないので、不安な場合は3センチ以上の切り口には塗るようにしても良いと思います。

### 重力には勝てないのです

切り方にも特別注意が必要となります。太ければ一気に切り離せないで、完全に切り落とす前に自重で下がってきたり、傾いてきてしまうのです。その時、まだ繋がっている樹皮が引き剥がれてしまいます。残った部分まで連なって引き剥がれてしまい、大きな腐りの原因を残しているのをよく見かけます。こういった時はあらかじめ【下がる、または倒れる】側の面から直径の4～5割切り込み（裏切り）を入れておき、そこより先で切るようにします。流れとしては、

- ① ブランチカラーを意識した剪定位置を決める。
- ② そこより30～50センチ先に裏切りを入れる。（長さは太さによる）
- ③ 裏切りより先で切りにかかる
- ④ 裂けてきても裏切りの位置で切り離してあるのでそれ以上先には害が及ばない
- ⑤ 残った②の30～50センチの部分で位置で切り完了

となります。横着して1度で切りたくなりますが、まず間違いなく樹皮をめくって後悔しますので、確実に実践してください。



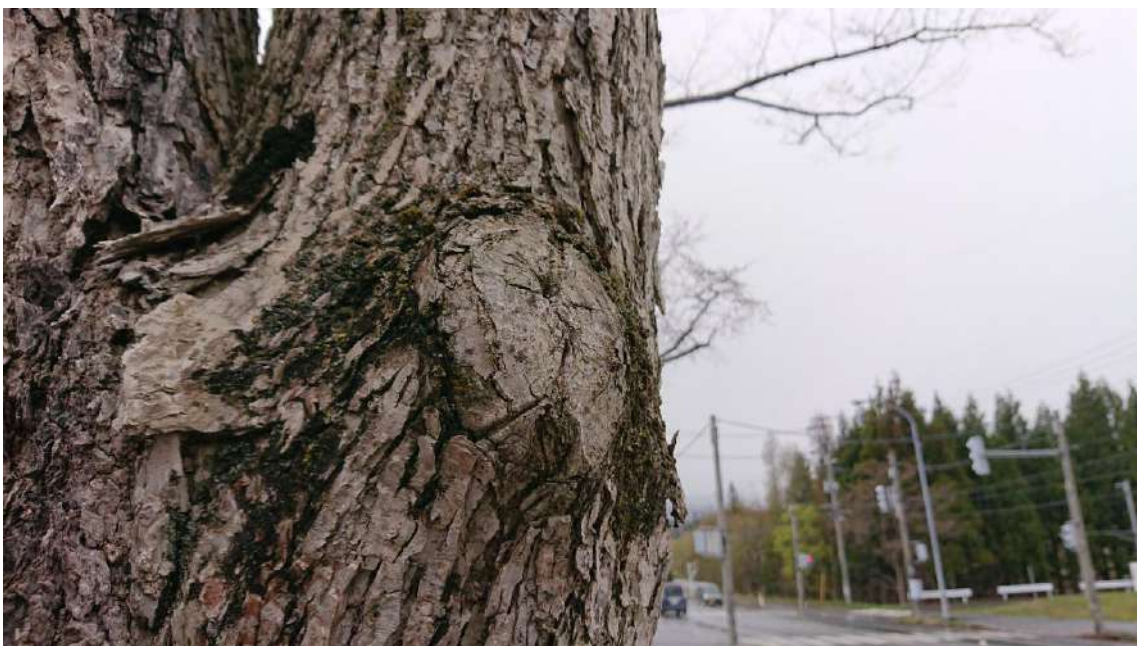
再生しない位置で切り、皮までめくった剪定… こんな切り方が無くなりますように。





## 最後に

今回の剪定方法を見直す機会を作ろうとの計画は、ソメイヨシノは肥料不足が原因だけで花が少なくなるのか？他に弱る要因はないのか？との思いから始まりました。誤った剪定により傷んだソメイヨシノもみられることから、剪定方法を再確認して改善することも【花咲か大作戦】なのではないかと思うのです。これを機会に、より良い花が楽しめるように安全作業で管理に従事してください。



綺麗に正しく切れば塞がります。 よろしく願いいたします。

